

NISHINOMIYA EBISU

西宮

平成三十一年 新春号

えびす



十日えびす

海上渡御二十年記念のお知らせ

NISHINOMIYA EBISU

西宮

平成三十一年 新春号

えびす



十日えびす

海上渡御二十年記念のお知らせ

平成三十一年

社報新春号

西宮神社宮司 吉井良昭



本年は御代替わりの寿ぎの歳です。四月三十日の「退位礼正殿の儀」、五月二日の天皇

御即位に伴なう「剣璽等承継の儀」更に「即位後朝見の儀」が国の儀式として行なわれます。秋十月には国の内外に即位を宣命される「即位礼正殿の儀」、そして翌十一月の「大嘗祭」と皇位継承の儀式が執り行われます。ご崇敬各位とともに厳かな内に恙無く執り行われますことを祈り奉るところでございます。

さて、この奉祝の歳にあたり当社では「海上渡御再興二十年 和田岬渡御」を執行致します。この神事は、えびす大神様が初めてご出現になられた和田岬沖へ御座船を先頭に供奉船を連ねて渡御するというもので、治承四年（二八〇）に既に行なわれておりました。

治承四年とは源頼朝が伊豆蛭ヶ小島で挙兵した年、中世への幕開けの第一歩の年ともいえます。また当時の和田岬（大輪田泊）は、日宋貿易を一層盛んにするために、清盛によって大改修がなされていきました。十年遡る嘉応二年には宋の船が初めて大輪田泊に着いたので、後白河法皇は接見のため福原を訪れています。（これは未曾有のこととて、天魔の所為と九条兼実が『玉葉』に書き記す）



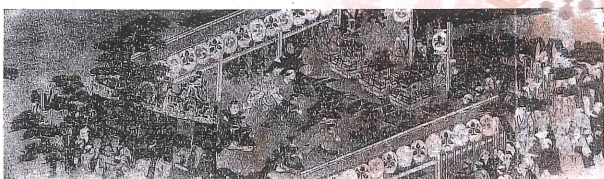
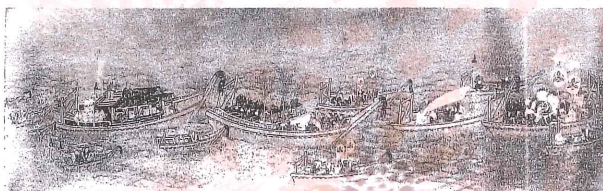
このように古代から中世へ移行する政治的・軍事的激動の時代、また宋船入港という新しい時代の予感の只中で海上渡御は行なわれていました。

和田岬への往路は海上を、復路は陸路を通過して一日の神事として斎行され、西宮への還御は亥刻（午後十時頃）と記しています。本年九月二十三日の和田岬海上渡御に先立ち、春季に往時の大神事の踏襲として、陸路踏破を行います。また中断されていた江戸期に渡御神事の様子を描いた「西宮大神本紀」（戦災焼失）の復元を現在計画中です。

平成二十三年から江戸期の社用日記を翻刻、刊行中ですが、これをテーマ別に読みやすい内容とした「江戸時代のえびすさん史話」（仮称）も刊行の準備を進めております。

国民挙つて奉祝申し上げる御代替わりの歳、新時代の幕開けにふさわしい和田岬への渡御により、えびす大神様は必ずや二層御神徳を輝かされ、大きな福をお授けになられることでしょう。

ご崇敬の皆様のご多幸と萬福を祈念申し上げます。



おめでたい 福寿の神の縁起物展

鯛土鈴
東京 八丈島



鯛乗りえびす像
新潟 阿賀野



福栞



鯛乗りえびす坐像
愛知 三河

当初、漁業の神、市場の神として信仰されたえびすさまは室町時代(十五世紀)頃から七福神の神としても拝される様になり、やがて「えびす・だいこく祀らぬ家は無し」とまで称えられる様になります。五合||半升||繁盛の栞に御神像を納めたり、御神影札といった形で神棚や台所あるいは商店に祀られて現在に至ります。えびすさまの傍らには福笹や熊手、箕などの縁起物(吉兆とも呼ばれる)が賑やかに飾り付けられます。西宮神社の十日えびすでも福笹をはじめ、大きな熊手や箕を誇らしげに持ち帰る参拝者が毎年多く見受けられます。

年末・年始、十日えびすや節分の期間にあたる今回の展示では、えびすさまをはじめとする福の神々の華やかな縁起物を中心に、可愛らしい宝船なども陳列します。ご参拝の際にお立ち寄りになり、新年・節分を寿ぐ縁(よすが)となれば幸いです。

【開館時間 午前九時～午後四時】



吉兆箕(きつちょうみ) 当社境内



大福笹(当社)長さ約80cm



えびす土鈴



七福神の宝船 京都・山科





十日えびす

商売繁盛・大漁満足・家内安全・
五穀豊穡・開運招福など……。
福の神えびすさまのご神徳を仰
ごうと全国各地から崇敬者が参
り集う十日えびす。平成最後とな
る十日えびす。皆様のご参拝をお
待ち申し上げております。



福男かがみ開き

○年末年始の主な行事

十二月二十七日 煤払祭

えびすさまの二年のご加護に感謝するとともに、新年を清々しくお迎え頂けるよう本殿を掃き清めます。また境内では西宮神社三田分社ご奉納の逆さ門松が立てられます。

十二月三十一日 大祓式

除夜祭

歳旦祭

奉射事始祭

新年の除災招福を祈り西宮市弓道協会の奉仕により災いを祓うといわれる箭矢が放たれます。

元始祭

百太夫神社祭

芸能の神として崇敬を集める傀儡の祖神百太夫さまのご例祭です。徳島の阿波木偶箱まわし保存会、また地元西宮の人形芝居えびす座によりえびす舞が奉納されます。

招福大まぐる奉納式

神戸市東部水産物卸売協同組合をはじめ三社共同により招福大まぐるが奉納されます。また神戸市東部青果中央卸売協同組合からはえびすさまとゆかりの深い二股大根が奉納されます。

一月八日

一月三日

一月五日

一月一日

一月二日



招福大まぐろ搬入



有馬温泉献湯式



一月九日(水)宵えびす
 十月十日(木)本えびす



一月十一日(金)残り福

招福大まぐろ

献華祭
 嵯峨御流奉仕によりご神前にいけばなが奉納されます。
 一月九日・十一日 十日えびす
 一月十五日 十日えびす報賽祭

○新年ご祈祷のご案内

十日えびすはえびすさまのご神徳が最も高まる日といわれています。新玉の年、えびすさまの福をお授かり下さい。

ご祈祷料 個人 五千元
 団体 二万円

正月・十日えびすは特別に本殿にご昇殿

●郵便でのご祈願のお申込み

当社にお参り頂くのが本義でございますが、遠方にお住まいの方・ご多用の方など、期間中にお参り頂く事が叶わない方には郵便でのご祈願も承っております。西宮神社祭祀課までお問い合わせ下さい。

海上渡御は再興二十年を迎えます。

震災からの復興、そして海上渡御の再興へ。

平成七年、突如として発生した阪神淡路大震災。

早暁に起こった大地震は阪神間を中心に大きな被害をもたらしました。

幾多の苦難のなか復興に向けて立ちあがりつつある西宮の人達を励ましたい。

そんな願いから西宮まつり協議会は発足され、

西宮神社協議会協力のもと約四百年ぶりに海上渡御は復活を遂げました。

あれから十九年。年々賑やかになるその様子は

西宮の震災からの復興を印象づけました。

そして来たる九月には渡御祭再興二十年の佳節を迎えます。

再興十年の節にも行いました全船団の産宮参りのほか

様々な奉祝行事を計画致しております。



西宮海上を往く渡御船団
(平成12年再興第1回渡御祭り)



当社とゆかりの深い真光寺の一遍上人御廟へ参拝



和田神社に設けたお旅所にて童女神楽奉納
(上下写真 平成21年)

二十年記念行事のご案内

① 記念講演会開催

えびすさまが、ご出現された和田岬をテーマに記念講演会を開催します。

② えびすさまの道

西国街道福めぐり、西宮神社から和田岬へ開催
伝承では、かつての産宮参りは往路には海上渡御を、復路には陸路を用いていたといわれています。その故事にならい先人が歩んだ道を踏破します。

③ 西国街道 御朱印めぐり

産宮参りに、ゆかりの深い杜寺との朱印巡りを企画します。特別の御朱印帳を作製し、すべての杜寺の御朱印を受けられた方には記念品を贈呈します。

海上渡御祭再興の歩み

十六世紀後半

織田信長の社領没収を受け
平安時代以来の歴史を有する
海上渡御は中絶

平成十二年

海上渡御再興に向け
西宮まつり協議会発足

平成十三年

約四百年ぶりに海上渡御を再興
西宮浜沖にてかざまつり齋行

平成十四年

和田三石両神社への産宮参り
再興(一部船団のみ)

平成十七年

この年より氏子四地区順番に
お旅所を設けお旅所祭を齋行

平成十九年

淡路人形浄瑠璃船が
海上渡御に加わり

平成二十年

西宮浜沖にてえびす舞奉納
再興十年を記念し全渡御船団が

平成二十一年

和田岬へ巡行
当社と縁の深い一遍上人御廟

平成二十六年

(神戸真光寺へ参拝
産宮参り二行が柳原蛭子神社へ

平成二十九年

海上にて創作えびす舞
『えびす大神』出現の段』奉納

社頭の お話

①



●平成28年3月20日 下旬祭 社頭講話

「日本語のはし」

日本語の「はし」には様々な意味があります。一つには食事の際に使う箸、一つには川に掛ける橋、垂直方向へ掛ける場合の梯子や階段を表す階(刻橋)の橋も同根の言葉です。

共通しているのは一つの地点ともう一つの地点の間に渡すものという意味をもつこと。

古代の日本人にとって橋は特別なものでした。

神話の中に登場する橋を見てみると、有名なものに天の浮橋があります。イザナギ・イザナミ二柱の神々が国生みを行う際、この天浮橋に立ち天の沼矛という矛を地上に指しおろしてかき回して引き揚げると先端から潮が滴り落ちて固まり有名なオノゴロ島になったという話ですが、天の浮橋は、神々の住む天上世界と人間の住む地上世界を結ぶもの、つまり二つの異なる世界を結ぶ通路が橋だと古代人は考えていました。古代においては川に橋を掛ける技術と云うのが未発達でしたから川は簡単に越えられるものではなかった。

川はその土地の境界、国境であり、向こう岸は異世界であった。

だから橋に対して自分たちがいる世界と異世界を結ぶという意味で特別な思いを持っていただけです。

一方食事に使うお箸も神話に登場します。スサノオ命が高天原から追放されて出雲の国に降り、川のほとりに立っていると川上から箸が流れてくるのを発見し、上流に人が住んでいるに違いないと思って訪ねていくと、老夫婦が娘を家の中において泣いていた。

これは有名なヤマタノオロチ退治に続いていく部分ですが、既に古代社会において箸が人間生活の象徴として捉えられていたことが分かります。人間は生きていくために必ず食べものを摂取しなければなりません。その際、人と食べもの間に渡すものという意味で箸と呼ばれたわけです。箸は神話の頃より日本人にとって必要不可欠な食器であり、また日本人にとって食べものは神様からの賜りものですから、食事に使う箸は生活の中で特に大切に扱われ、様々な箸にまつわるマナーやタブーが生まれたわけです。



■旬祭参列のご案内

毎月1、10、20日の午前10時から本殿にて、皇室弥栄・国家繁栄等を祈願して、旬祭を執り行います。神饌をお供えし、祝詞奏上や神楽の奉納があります。所要時間は約40分です。その後、宮司以下神職が回り持ちで講話を致します。拝殿にご自由にお入りの上ご参列下さい。



羽子板・羽根つき



凧揚げやコマ回しと共に正月の遊びに思い浮かぶのは羽根つきではないでしょうか。華やかな羽子板や羽根をつく歯切れの良い音色はバドミントンとは違った日本らしい風情が感じられます。

年占(としうら)といって一年の良し悪しの占いが由来であるとする説や、蚊遣りのまじないとする説もあり、十六世紀の記録にも見られる昔からの遊びです。二人で交互につくのを追羽根(おいはね)、一人で回数を重ねるのを衝羽根(つきばね・つくばね)と言います。江戸時代の末に押絵などの飾り羽子板が現れ浅草の羽子板市は現在も有名。新春に何回続けられるか数えてみたいものです。

◎ 福にまつわる

「禍福は糾える縄の如し」

かふく

あざな

ことは

二

人間が生きていると、好むと好まざるに係わらず、良い事やそうでない事など様々な出来事にめぐり合います。総じて現状を嘆く人が多く見受けられますが、皆さんは如何でしょうか？ 「糾える縄」と言っても現代では縄を目にする機会も少なくなつたと思います。運動会の綱引きや船舶を係留するものより細めの縄の出番はどんな所かと考えます。以前は農家などの夜なべ(夜間の手仕事)で筵(ムシロ)を編んだり、縄を綯う事が盛んに行われたと教わりました。銘酒の産地、灘五郷の一つ、西宮近辺では日本酒の孤樽に筵や縄が今でも使われています。一般の方々が縄を目にするのは正月の注連飾りでしょうか？

禍(わざわい)と福(幸福)、二つの要素が在つてこそ人生または家庭・民族と言う縄が伸びて行くのかも知れません。生活

や仕事さまざまな環境が大変であっても、必ず変化が訪れます。

日々の大小の幸せに感謝

をしながら、将来・未来を見据えて常に備えを持ちたいものです。そうして「頼みの綱」と言われるように、しっかりと生涯を歩みましょう。



松下呉服店

住所 兵庫県西宮市馬場町4-22
電話 0798-33-0072
HP <https://www.mygofukuten.com>

明治22年の創業時より誠実な商いを貫き、お客様の信頼を得て参りました。次世代に引き継がれる伝統的かつ個性溢れる着物、洗練されたコーディネートと着付けは、他に類を見ないと好評です。



果物と野菜の 万田里(マンダリ)

住所 兵庫県西宮市馬場町6-6
電話 0798-26-2400

産地にこだわった旬の果物や、地元の新鮮な野菜を扱っています。1枚1枚手焼きしている「えびす福お面」せんべいや、えびす様をモチーフにしたゆるキャラ「ふくみみ福ちゃん」と共に皆様のご来店をお待ちしています。



その
参拝の帰りに立ち寄りたい、
立ち寄って頂きたい場所

西宮中央商店街

阪神西宮駅に隣接し
西宮神社の門前町として栄えてきた西宮中央商店街。
今回はその中の3つのお店を紹介いたします。



EBISU

えびすさまのお膝元 にしのみや町あるき

御菓子司 君栄堂

住所 兵庫県西宮市馬場町4-28
電話 0798-22-1764

西宮神社前にて大正の中期に創業し、約100年になる和菓子店です。四季折々の生菓子をはじめ、慶



弔用やご進物又、十日戎には熱々の酒饅頭、西宮神社ご用命の御神餅、十日参りの「とおかし」としての戎福栗や宮もなかなどもございます。



宮もなかと戎福栗

1月～6月の行事予定

1月

1日 歳旦祭

2日 奉射事始祭

3日 元始祭

5日 百太夫神社祭

7日 昭和天皇祭 遥拝

8日 招福大まぐる奉納式

9日 十日えびす・宵宮
有馬温泉献湯式

宵宮祭

10日 十日えびす・本えびす

十日えびす大祭

開門神事福男選び

11日 十日えびす・残り福

14日 成人の日祭

15日 十日えびす報賽祭

19日～2月3日 特別祈禱
福まいり

2月

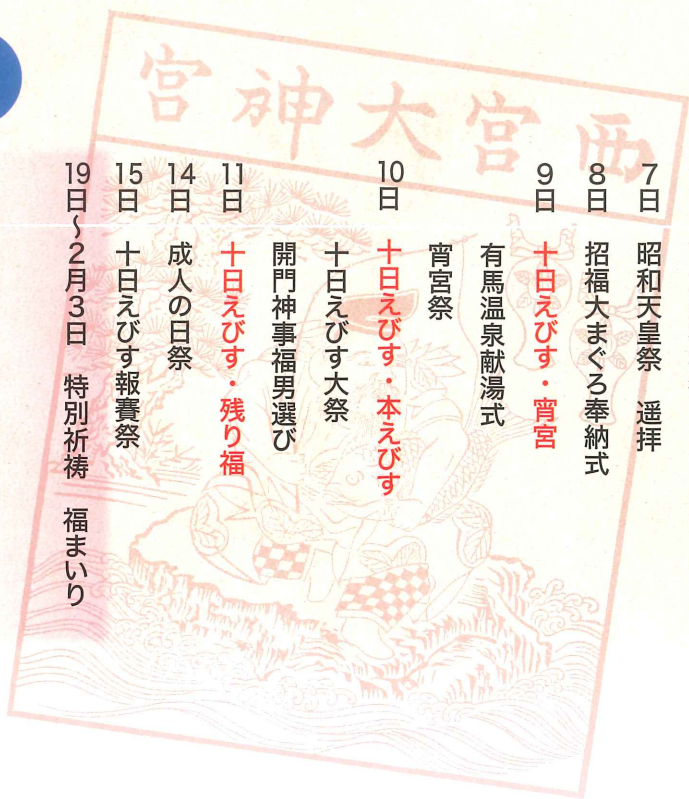
2月

2日 初午祭

3日 節分祭・若戎会餅つき

11日 紀元祭

17日 祈年祭



主な行事

1月19日(土)～2月3日(日) 特別祈禱 福まいり

えびすさまの大前にて特別に福まいり(えべっさんの招福厄除祭)のご祈願をお受け頂きますと、福をお受け頂くことにより降りかかる災厄を祓い除きます。

1月20日(日)に『特別祈禱 福まいり』のご祈禱をお受け頂きました方は、ご祈禱の後に直会料理として福まいりの『清白御膳』をお召し上がり頂きます。(先着150名)

また1月27日(日)、2月3日(日)に祈禱を受けられた方は、ご祈禱後に『福寄御腕』をお召し上がり頂きます。

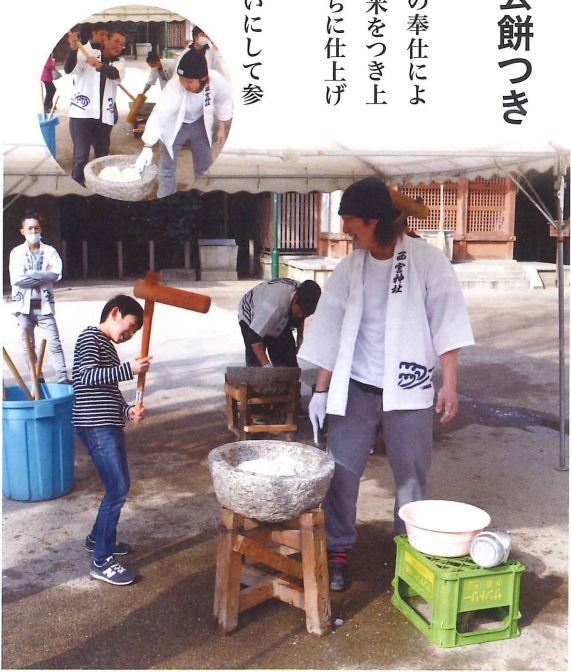


主な行事

2月3日 若戎会餅つき

氏子青年会若戎会の奉仕により、約200kgのもち米をつき上げ、6000個の丸もちに仕上げます。

もちは当日ぜんざいにして参拝者に振る舞われる他、地元福祉施設などに配られます。



3月

10日〜4月20日 えびすさまの勸学祭
(小学生のお子様への勉強向上、通学安全)

21日 春季皇霊祭 遥拝

28日 えびすの森 春休み子ども観察会

4月

2日 松尾神社祭

3日 梅宮神社祭

9日 宇賀魂神社祭

19日 献茶式

29日 昭和祭

5月

1日 西宮郷醇友会太々神楽祭

3日 憲法記念日祭

大阪第一招福組太々神楽祭

4日 日供講社太々神楽祭

5日 子供の日祭

西宮太々講社神楽祭 えべっさんこどもまつり

6日 六甲山神社祭

諸国講社太々神楽祭

10日 本えびす講社太々神楽祭

15日 大國主西神社祭

6月

14日 おこしやまつり

30日 夏越大祓式



えびすの森 春休み子ども観察会



夏越大祓式

主な行事

主な行事

5月5日 えべっさん

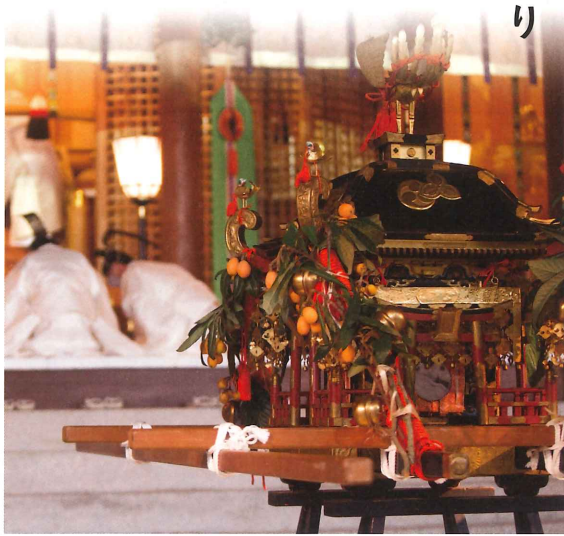
こどもまつり

1、3、4、5、6、10日と、様々な崇敬講社よりえびすさまにお神楽をご奉納頂いております。中でも5月5日の「こどもの日」に行われる「西宮太々講社神楽祭「えべっさんこどもまつり」は境内一円子供たちで大賑わいです。



6月14日 おこしやまつり

えびすさまの御鎮座伝承に由来する神事です。午後2時に本殿で祭典を斎行。続けてえびすさまの神輿を留めた場所と伝わるおこしや跡地(西宮本町交差点近く)へ移動し、同跡地にてピワの無料授与(午後3時頃)を行います。また境内では親子でお楽しみいただける縁日、屋台が出店します。(午後4時〜午後8時)



お食い初め
御膳

～歯固めの福石付き～



生後100日を過ぎると、
そろそろ歯が生え始める時期です。

お食い初めには、将来の幸福を願う祝意と
歯が生えた喜びの意味も込められています。

当社に伝来する作法で、
えびす様の福にあやかり、

福を口から入れて身につける
「口福(くちふく)の歯固め石」は

純白の「福」袋に入れて
一生のお守りとして

お持ちいただけます。

「膳3,800円にて
神社会館にお申込みください」。



お食い初め祝膳

「えびす善哉」

本年お正月に特別善哉(えびす善哉)を
ご準備致しました。神社会館にて1～3日
(午前10時～午後5時)、日限定100食、
お入様500円にて提供させて頂きます。

ご参拝の折、ぜひ神社会館にお立ち寄り
下さい。



春のブライダルフェア

二月十日(日)10時～18時

ご予約
不要

- ◇和装・洋装衣裳展示試着会
- ◇美容相談会(かつら試着体験)
- ◇本殿挙式説明会
- ◇婚礼料理試食会

要予約

厳かに...
華麗に...
あこがれの神前式

七五三・宮参り等のご会食も承ります。

西宮神社会館

0798-2313311

info@jinjyakaikan.com

編集室から

ここに社報「西宮えびす」五十号
をお届けいたします。

今号からの新連載が二つありま
す。まず六頁の「社頭のお話」これは
毎月一十、二十日に行われる旬祭の
後のお話を文章化したものです。宮
司以下神職の多岐にわたる話をお
読みになり、旬祭参りのキッカケに繋
がれたいと思います。

また八頁の「にしのみや町あるき」
では、参拝の道すがらお立ち寄りにな
れるお店を紹介してまいります。もし
かすると祭典行列に奉仕されている
地元の方々との違った一面に出会えるか
も。ぜひ馴染みのお店を増やして、お
参りの楽しみに加えて下さい。

いよいよ春には平成から新しい時
代への御代替わりがあります。当社
では丁度九月の海上渡御祭が再興
二十年になる事も併せ四月から種々
の記念行事を行います。千載一遇のお
めでたい年にどうぞお誘いあわせてお
参り下さい。

皆さまに福の神えびすさまの御加
護が授かりますように。

特設ホームページで
西宮神社の最新情報を
ご覧ください。

西宮神社 公式サイト 検索
http://nishinomiya-ebisu.com



西宮神社
公式サイト
QRコード